

「改革開放」後の中国語に入った日系外来語の研究
The Research of the Japanese Loan-words in Chinese Since Reform and
Opening-up of China

王 崗
深圳大学

要旨

中国は 1978 年に「改革開放」政策を打ち出して以来、世界各国との経済文化の交流を盛んに繰り広げてきている。その過程において、種々様々な新概念や新事物が現れており、それに伴って数多くの中国語の新語も生み出されている。中には日本語が語源であるものが多数ある。これらが、音訳語や、「風呂」（風呂）など特徴的な語を除き、ほとんど中国語化され、語形でも意味でも生粋の中国語のように見えるため、完璧な中国語だと思い込んでいる中国語話者が多いように思われる。しかし、日本語なので、意味や用法ではその跡がまだ多少とも残っているものがある。この中で、日本語元来の意味用法をそのまま維持するものもあれば、何らかの変化を生起させるものもある。「改革開放」後に中国語に入った日系外来語を研究することで、新時代における両言語間の交流を読み取ることができるし、その奥に見え隠れしている歴史や時代的な変化もわかってくる。

キーワード：日系外来語、移入、意味用法、時代変化

「改革開放」後の中国語に入った日系外来語の研究

王 崗
深圳大学

1. はじめに

現代中国語に日本語由来の語（本稿でいう日系外来語¹）が入っているのは、すでに周知の通りである。「違和感」（違和感）、「达人」（達人）、「人气」（人気）などはその代表例である。実は、振り返ってみれば、このような日本語の中国流入は前後2回のピークを迎えていたと思われる（夏晓丽 2006、秦晓晖 2014）。1回目は、19世紀末期から20世紀初頭にかけての時期（近代前期）であり、2回目は中国の「改革開放」開始後、すなわち1978年から始まった時期であるが、その余波が現在でも緩やかに続いている。

近代期の中国語における日系外来語の研究は、跡が絶えない。手短にあげると、実藤恵秀（1970）、朱京偉（1995）、荒川清秀（1997）、陈力卫（2007）、沈国威（2008）、李运博（2010）がある。これにひきかえ、「改革開放」後の該当研究となると、正直まだそれほど十分だとは言いがたい。この時期の中国語に現れていた数多くの新語や流行語、インターネットスラングなどへの関心が高く、一大研究ブームになるほどであるが、その重要な構成成分である日系外来語に対しては、21世紀以降徐々に注目され、沈文凡ほか（2008）、王雯（2010）、王莎莎（2014）、李旖旎ほか（2016）、侯仁鋒ほか（2016）の論考がようやくみられるようになった。ただ、これらの研究を見渡すと、日系外来語の数量集計、認知度調査、語積、移入背景などに集中しているものが多いように見える。トータル的なアプローチがめったになされていないと言わざるを得ない。そこで、本稿は「改革開放」後の日系外来語を取りあげ、その総合的な検討を試みる。

2. 「改革開放」後の日系外来語とその数

「改革開放」後の中日交流の活発化に伴い、多くの日本語が日系外来語として訳出や借用で中国語に流れ込んできたが、その数は未だに一定されていない。その要因の一つは、日本語の流入が依然として続いているため、ある時点以前のものではない限り、基本的にその数をまとめることができないことである。もう一つは、近代期の語なのか「改革開放」後の語なのかの判定がときに難しく、コーパスやデータベースの活用次第でその数が変わるということである。

¹ 日本語由来の中国語については、日源新詞、日源借詞、日源外来詞、日源詞、日語借詞など多様な言い方があるが、便宜上、本稿ではそれらを日系外来語と統一呼称する。

本稿は、語数の調査がメインではないため、「改革開放」後の日系外来語に関する先行研究の統計結果を参考にしたうえで、研究範囲を決める。まずは、従来の各研究における日系外来語の集計をみてみよう。

表1 「改革開放」後の日系外来語についての数量統計

文献	語数	語例	備考
顾江萍（2007）	203	配送、量販、甜不辣	接辞込め
王 雯（2010）	117	封杀、OL、一级棒	接辞込め
秦晓晖（2014）	175	声优、物流、多动症	2013年まで
刘凡夫（2016）	135	素人、完败、安乐死	1980年-2014年
侯仁锋ほか（2016）	311	毒舌、伪娘、败犬女	1978年-2014年
钱爱琴（2018）	63	宅、爆买、断舍离	1990年~（2017年）

表1からわかるように、そのいずれにも日系外来語の計量があったとはいうものの、その数がばらついている。よって、本稿は、上表の一連の調査に基づき、相互に重なるものを1語と併合し、そして「改革開放」後ではないもの²を除いたうえで、日系外来語を再統合してみた。その結果は、以下の通りになる。

表2 「改革開放」後の日系外来語の整理（中国語読み順 a-h）

<p>a)阿鲁族、爱车、爱娇、安倍经济学、安乐死、AV女优、b)扒金库（爬进宫）、百合、败犬女、败因、保湿、保育、爆买、爆笑、暴走、暴走族、杯面、本垒打、壁咚、闭馆、必杀技、闭锁、便当、便当男、便利店、不良债权、不作为、步道桥、不伦、c)草根、草食男、残念、厕饭、产业政策、超一流、车检、晨型人、成人病、痴汉、齿科、处分金、初体验、串烧、刺身、d) 达人、大赏、大学院、单品、单身赴任、单身贵族、耽美、导盲犬、导入式、盗垒、登校、低迷、第一谈（弾）、电波钟、电车男、点滴、电子宠物、店长、定番、定食、定休日、读解、毒舌、对决、断舍离、钝感力、多动症、多文化、e)恶评、恶趣味、儿童店长、二次会、f) 发表会、发泡酒、法人、番外篇、粪肉、風呂、福袋、腐女、腹黑、福祉、g)高速公路、公务员、公众人物、鬼才、过劳死、干物女、个展、（全）攻略、古着、鬼畜、国技、h)汉方、韩流、好感度、好调、号哭族、和食、合战、黑科技、横纲、黄金周、会员制、回转寿司、婚活、混浴、活性化</p>
（112語）

² 語の選別は主に侯仁锋ほか（2016）の調査に基づいて行った。

表3 「改革開放」後の日系外来語の整理（中国語読み順 j-z & 接辞備考）

j) 即食、激瘦、集中讲义、家电、价格违反、家政（妇）、监理、检讨、解读、精算、敬语、就学生、剧场版、居酒屋、距离感、绝赞、**k)** 卡拉OK、卡哇伊、凯蒂猫、看板、啃老族、空巢、空港、空手道、空调、苦手、**l)** 老龄化、离活、历女、理容、立食、连霸、量贩、量贩店、料理、零增长、乱入、萝莉、萝莉控、**m)** 妈妈桑、（大）卖场、买春、卖春妇、麦难民、买手、蛮勇、盲点、美白、美肌、美体、梅酒、美容液、美少女、媒体、美颜、萌（萌萌哒）、秘笈、秒杀、民宿、名品、抹茶、募金、**n)** 纳豆、男友力、脑死亡、内需、年度汉字、年功序列、年中无休、娘化、鸟居、女优、女子力、女子男、暖冬、暖房、**o)** OL、欧巴桑、欧吉桑、**p)** 帕青哥、泡沫经济、偏差值、品质（保证）、**q)** 旗舰店、企业人、前卫、切换、亲和（力）、亲水、清酒、轻小说、**r)** 人间国宝、人间蒸发、人脉、人气、忍者、日系、融资、肉食女（食肉女）、入浴剂、入院、**s)** 三低男、三连休、森女、杀到、沙漠化、商用车、少子化、社会人、舌祸、神器、胜机、胜因、声优、生鱼片、食材、食草男（草食男）、试错、视点、市况、食文化、售后服务、收纳、瘦身、熟年、熟女、水壶男、斯纳库、私物、宿便、速达、素人、素颜、**t)** 榻榻米、特典、特集、特卖（品）、甜不辣、天妇罗、天然呆、调理师、铁板烧、统合、铜锣烧、同人志、同性爱、吐槽、土石流、团地、推进（本部）、推理小说、豚骨、脱毛、**w)** 外卖、完败、完胜、网吧难民、王道、忘年会、违和感、危机管理、伪娘、味噌汤、文库本、文脉、乌冬面、无记名、无力感、物流、物权、物语、**x)** 惜败、洗颜霜、仙贝、相扑、香辛料、消磁、小确幸、小物、写手、写真、写真集、新登场、新发卖、新干线、新人类、新锐、新新人类、修学游（修学旅行）、玄关、玄米、巡演、**y)** 押收、颜文字、研修（生）、颜值、业态、业者、移动电话、一级棒、乙男、乙女、艺能界、阴阳师、幼齿、友尽、友情出演、御姐、御守、语言暴力、浴衣、御宅族、宇宙人、原爆、原稿纸、援交（援助交际）、元气满满、原住民、**z)** 再生纸、再生资源、宅急送（宅急便）、宅、宅男、宅女、宅配、展示会、章鱼烧（章鱼丸）、招财猫、蒸发、整合、症候群、正解、正太、正太控、正装、制霸、职场、直航、职人、直通、知识产业、治愈系、中二病、中古、中古车、仲介、终身雇用、中水、周刊志、主题游乐园、自闭症、自动贩卖机（自动售货机）、姊妹市、综合商社、最爱

（255 語）

接辞備考：～控、～中、超～、问题～、～族、～流、准～、真～、～屋

（9 語）

上記のように、表2と表3における367語及び備考としての接辞の9語、計376語を本稿の対象語とした。

3. 「改革開放」後の日系外来語の移入法

日本語には漢字³、仮名とローマ字という3種類の文字表記法がある。「改革開放」後には、それらを中国語に移入するときに、大まかに2通りの方法を取り入れてきた。一つは、漢字（当て字も含む）またはローマ字の場合にその語形（または字形）を借用するということである。もう一つは、仮名の場合に意識や音声の模写をするということである。以下、その詳細を取りあげる。

ア. 語形借用法

語形借用法とは文字通り、日本語の音声ではなく、その語形（語意も含む）を中国語に借り移すことである。前述したように、漢字またはローマ字の出る日本語を中国語に導入する際に、その語形、字形を借用することが多い。漢字の例には表2の「安楽死」（安樂死）や「萌」（萌え/萌える）などがあり、ローマ字の例には表3の「OL」がある。ただ、「安楽死」を「安乐死」と言うように、日本語の漢字を利用する場合は中国語の字体（簡体字など）に調整されることがある。

中国と日本がいずれも漢字文化圏に所属しているため、漢字が込められる日本語は中国語話者になじみやすく、漢字のまま中国語に入っている、容易に認知されたり使用されたりする。よって、漢字の外形・意味借用が日系外来語導入時の愛用方法になる。王雯（2010）は、中国語において、漢字借用からなる語は日系外来語の9割にも達すると指摘している。本稿の統計でも接辞を込めた完全漢字系の外来語が計319語になり、全体の85%も占めていることが明らかになった。ここからは、中国語に入った漢字系日本語の割合の高さがわかる。そして、それは、中国語における欧米語由来の外来語と大きな相違点だと思われる。

一方、日本語のローマ字語は、近代期の中国語においてめったになかったようだが、「改革開放」後にはネット語としてしばしば登場してきた。ただ、普通の中国語には「HONDA」など専門用語以外に、導入も多くはない。前記の「OL」がその一例になる。ローマ字形のまま中国語に借入されたのは、英字と同じように中国語にも通じるため、中国語話者には違和感がないからだと思われる。

³ 以下にいう漢字は「漢字文化圏」という術語にある「漢字」を除き、いずれも中国語ではなく、日本語の漢字のみを指す。

イ. 音訳法

音訳法とは日本語の仮名（平仮名と片仮名）の読み方をもじって、それに近い中国語を当てることである。先の「語形借用」のパターンと違い、この形式ではもっぱら日本語の音声が利用される。

仮名からなる日本語は、対応の表記文字がないため、音訳の形式で中国語に導入されることがある。例えば、表2と表3における、

扒金庫（爬进宫）：扒⇒パ、金⇒チン、庫⇒コ = パチンコ
萝莉：萝⇒ロ、莉⇒リ = ロリ（「ロリータ」の略）
欧巴桑：欧⇒お、巴⇒ば（あ）、桑⇒さん = おば（あ）さん

などはその好例である⁴。

音訳語については、王雯（2010）には「卡哇伊」（かわいい⇒卡哇伊）など4語しか採取されず、日系外来語全体のわずか3.3%を占めていると述べられている。本稿は、前掲の表2と表3を調査したところ、音訳語が接辞を込めて総計15語あり、語例全体の約4%になることがわかった。

ウ. 意識法

意識法とは、日本語の意味を中国語に訳出することである。もとより意識法は欧米語の中国語導入に常用されるパターンであるが、わずかながら日本語の輸入にも使用されたケースがみられる。この中には、逐次訳によるものもあれば、もっぱら意味訳によるものもある。以下例示しよう。

逐次訳： カップラーメン⇒カップ=杯、ラーメン=面 ⇒ 杯面
ゴールデンウィーク⇒ゴールデン=黄金、ウィーク=周 ⇒ 黄金周
ゼロ成長⇒ゼロ=零、成長=増長 ⇒ 零増長
意味訳： 刺身⇒生魚の切り身のことから ⇒ 生魚片
インスタント⇒その場にすぐに食べることから ⇒ 即食
loogoo⇒アニメ『フルメタル・パニック』の当術語から ⇒ 黒科技

⁴ 中国語では日本語の撥音「ン」はいつも前接の仮名と一緒に音訳される。

意識法による日系外来語の数も少々である。王雯（2010）によると、それは「售后服务」（アフターサービス）など4語だけで、日系外来語全体のわずか3.3%を占めているということである。一方、本稿による前記表2と表3の調査では、意識語は全部で11語あり、全体のただ3%になる。

エ. 混合法

混合法とは、多様な構成方式で日本語を中国語に導入することである。混合法による日系外来語は、本稿の表2と表3の調査では全体の約8%を占める。語例は少ないが、いくつかのタイプがあげられる⁵。

- a. 音訳+意識：一級棒（一番）、烏冬面（うどん）
- b. 音訳+語形：卡拉OK（カラオケ）、麦难民（マック難民）
- c. 語形+意識：森女（森ガール）、味噌汤（ミソスープ）
- d. 意識+語形：招财猫（招き猫）、伪娘（男の娘）⁶

4. 「改革開放」後の日系外来語の意味用法

「改革開放」後に中国語に入った日系外来語は、意味用法において、もとの日本語とほぼ変わらないものがあるが、何らかの変化が生じたものもある。以下、順次検討する。

4.1 ほぼ無変化のもの

中国語に導入された日系外来語は、中国語話者による関心の高いものや、中国語にない概念や物事を表すものが大半である。このためか、意味にしても用法にしても、日本語とほとんど一緒であるものが多い。例えば、「败犬女」（敗犬女）、「腹黑」（腹黑）、「颜文字」（顔文字）、「自闭症」（自闭症）などは、日本語との間に意味・用法上の違いは特にないと考えられる。このような語は、意味や用法の別を問わず、合計325語がある。

⁵ 「a.」の「一級棒」（一級棒）は一級レベルすなわちこの上もない素晴らしいの意で、「一番」の意識語にもあたる。「b.」の「麦」は「マクドナルド(McDonald's)」の音訳語である「麦当劳」の略字である。「c.」の「女」と「汤」はそれぞれ「ガール」と「スープ」の意識語である。

⁶ 「d.」の「招财猫」と「伪娘」は字面上、それぞれ「財宝を招く猫」と「偽の娘」の意で、「招き猫」と「男の娘」の意識語にそれぞれ相当。

4.2 何らかの変化があったもの

一部の日系外来語は、意味や用法において、元来の日本語に比べ、多少ともずれている場合がある。

4.2.1 意味変化の例

先の表2と表3を調査してみると、変化のあったものは、以下のように総計30語がある（呉悦ほか2003、万紅2007、王雯2010、譙燕ほか2011なども参照）。

「暴走、暴走族、登校、毒舌、悪評、检讨、敬語、空巢、空手道、苦手、
（大）卖场、蛮勇、媒体、买手、人间蒸发、人气、声优、食材、瘦身、
熟年、熟女、写真、御宅族、援助交际、宅、宅男、宅女、职场、中古、
中古車」

上記の諸語は、「瘦身」⁷（スリム/ダイエット）以外に、いずれも前述した「語形借用法」によるものである。この偶然が結局、日系外来語の意味変化の要因究明に役立つことになる。

先にも触れたように、中国と日本がいずれも漢字文化圏に所属しているため、中国語話者は、日本語の漢字にかなりの親近感を抱いていることが容易に想像される。そして、その潜在意識に引っ張られ、漢字からなる日本語を中国語の同形語だと認識する傾向があるため、日系外来語を中国語の意味合いで読み解くことが普通の中国語話者に多いと考えられる。その認知過程において、日本語の漢字から転入した一部の日系外来語は、もとの日本語に比べ、意味合いのゆれが生み出されたのである。以下、いくつかの例示をしながら、その特徴をさらに明らかにする。

ア. 暴走・暴走族

日本語では、「暴走」とは規則無視で乱暴に走る⁸ことであり、「暴走族」とは、オートバイなどを危険な走行で乗り回す集団のことである。「暴走」は、日本のアニメ作品の流入で、徐々に中国語話者の目を引き、「乱暴に歩き回る」の意として中国語に使用されるようになった。さらに、その意味の延長で、熱狂的な徒歩運動愛好者を

⁷ 「瘦身」の日本語語源は不詳であるが、「スリム」「ダイエット」「瘦身」「痩せる」のどれも対応可能である。しかし、その意味変化は、上記の日本語の原語ではなく、中国語話者による「身を痩せさせる」という当該中国語の語義理解によって生じていると思われる。

⁸ ここより以下の日本語の語釈は、特別明記以外に『名鏡国語辞典 第二版』（大修館書店、2010）を一部参考。

言い表すようになってきている。一方の「暴走族」は、最初に乱暴なバイク集団を表す新語として中国語に輸入された⁹のだが、現在では、夢中になるほど長距離の徒歩旅行・運動（ハイキング）にはまり込む人たちを指すことが多い¹⁰。次はそれぞれの用例である。

① 暴走是一项健身运动。/「暴走」（長距離の歩行）はスポーツ運動である。
（百度知道 <https://zhidao.baidu.com>,2020-2-22 アクセス）

② 这些“暴走族”中走出病来的还真不少。/その長距離歩行愛好者の中には、不適切な歩行でけがした者が結構いる。
（个人图书馆 360doc.com,2020-2-22 アクセス）

このように、中国語における「暴走」であれ「暴走族」であれ、日本語に比べ、いずれも意味合いがずれたり拡大されたりしている。実は、そういう意味機能の変化は、中国語話者による日本語の漢字の捉え方に大きく関係すると思われる。中国語において、「暴」が「狂暴」や「猛烈」の意で、「走」が「歩く」の意であるため、中国語話者はそれらを合体させ、「乱暴に、狂気に歩く」、さらに「熱狂的な長距離徒歩運動愛好者」の意味として認識し、中国社会に浸透させたのだと思われる。

イ. 人間蒸发

日本語の「人間蒸发」とは、文字通り人間がいなくなることで、1967 に撮られた今村昌平監督による同名の映画がある（呉悦ほか、2003）。この語は、「改革開放」後に中国語に輸入されて以来、人間だけではなく、物事が消えてしまうという意味にも用いられるようになった。よって、次の言い方が中国語に生まれたのである。

③ 我只想问,我买的东西是人间蒸发了吗?!/ただ一つ聞きたいけど、買ってきたものはほんとに消えてしまったのか。
（百度贴吧 <https://tieba.baidu.com>,2020-5-18 アクセス）

このような新たな意味は、中国語話者が日本語の漢字に影響されて創出したのだともいえよう。中国語においては、「人間」がヒトのことではなく、「世間」「人の世」「世の中」の意味であり、「蒸发」（蒸発）は日本語の「行方不明」の意から（人間）消失のことも含意する。よって、「人間蒸发」（人間蒸発）は「この世から消えてなくなる」の意になるため、上例のごとき言い方が現れたのである。

⁹ 現在の中国語では、「暴走族」より「飞车党」（飛車党）のほうが普通の言い方だと考えられる。

¹⁰ 以下例文の訳は本稿による。

ウ. 空手道

「空手道」は剣道、柔道などとともに日本の武道である（呉悦ほか、2003）。これは中国語に伝えられてきたときに、日本語と同様に武道の専門用語として用いられてきている。しかし、中国の「改革開放」後になると、当語は、元来の日本語と完全に無関係の「元手なしの商売」「有名無実」（呉悦ほか、2003）などを指す新語として使用されるようになっていく。この場合では、下例のように、もとの武道の意が完全に消えてしまうことになる。

- ④男子玩起“空手道”诈骗 11 万余元鞭炮纸。/容疑者の男が元手なしの商売をし、11 余万元の爆竹用包み紙を詐取。

（鳳凰網 <http://news.ifeng.com>, 2020-5-26 アクセス）

上例のような意味変身は、中国語話者が日本語の「空手道」、特に「空手」の意を中国語の字面通りに捉えているからである。中国語の「空手」とは「素手」「手に何も持っていないこと」などの意であり、「道」は普通「みち」「方法」のようにも解される。これらが結びついてできた「空手道」は、中国語話者によって、例のように「無一文で取引する」という換喩的な意味合いに変わったのである。

4.2.2 用法変化の例

日本語は、中国語に移入された際に、その用法が変化したケースもみられる。前掲の表2と表3を調べた結果、用法変化があったと思われる語は、以下の計 29 語である（呉悦ほか 2003、王雯 2010、譙燕ほか 2011 など参照）。

「败因、登校、定番、毒舌、恶评、好调、绝赞、卡拉 OK、空巢、苦手、乐胜、料理、买春、蛮勇、萌、年中无休、舌祸、瘦身、吐槽、新干线、写真、研修、一级棒、宅、蒸发、中古、中古车、自闭症、～控」

用法変化の様子は一様ではないが、用法の拡大や縮小、またはズレがあるところに集中しているように見える。そして、その変化の要因は、使用場面に関する両言語話者間の認識差があったり、中国語話者によるしゃれたい心理や漢字の意味要素などに影響されたりすることが考えられる。以下、3例をあげて検討する。

ア. 毒舌

日本語の「毒舌」は辛辣な皮肉や悪口をいうことであり、中国語でも同様な意味合いで用いられているが、用法においては日本語といささか異なる点がある。その一つは、毒舌をふるう者をいうときに、日本語では「毒舌家」の形で表現するのに対して、中国語では「毒舌」のみで表し得る。もう一つは、日本語の「毒舌」に名詞機能しか付かないが、中国語ではそれが名詞と形容動詞のいずれにも機能することが可能になる。次がそれぞれの中国語の用例である。

⑤她在这个领域以毒舌著称。/この領域では彼女が毒舌で知られている。

(中国日报网 chinadaily.com.cn, 2020-7-12 アクセス)

⑥很毒舌地说说我的看法。/辛口でこっちの意見を言おうか。

(百度贴吧 <https://tieba.baidu.com>, 2020-7-12 アクセス)

中国語には「手」や「足」など体の一部で人間を言い指すレトリック法がある。例えば、「手足」は仲間を、「左膀右臂」(左腕右腕)は「腹心」をそれぞれ表す。ゆえに「毒舌」のままに酷評者を表すのは別に不思議なことではない。また、中国語の「毒舌」は、その性状的な特徴が前面に押し出されるところがあるため、形容詞的な含みも感じ取られる。よって、上例のように、中国語に入った「毒舌」が日本語の形容動詞的用法ももつようになったのである。

イ. 苦手

もともと、日本語の「苦手」は「不得手」を意味する形容動詞であるし、いやな感じをもつ相手などを意味する名詞でもある。それが「改革開放」後に中国語に輸入されてから、下記のように、「嫌な相手」「下手な人」という意味素が取り入れられ、しかも名詞の用法しか入っていない。

⑦我只是一个电脑苦手，怎么帮你呢？/電腦音痴だから、手伝えないよ。

(『新华网络语言词典』 p.73)

⑧崔哲瀚再就不是范廷钰苦手了/崔哲瀚はもう范廷钰の相手じゃない。

(<https://www.baidu.com>, 2020-7-19 アクセス)

中国語の「苦手」に名詞の用法しかないのは、中国語話者がその漢字に目を奪われてしまうことによると考えられる。先に触れたように、中国語には「手」などで人間を言い指すレトリック法がある。よって、「苦手」を目にした中国語話者は、「対応に苦しむ相手・人」の含みが容易にイメージできる。さらにそこから転じて「克星」(永遠なライバル、天敵)の意を表すようになったのだと考えられる。

ウ. ～控

中国語の「～控」は日本語の「ロリコン」、「マザコン」の「コン」を音訳してできた接辞である。接辞であることは、日本語と中国語が一緒に、これといった違いはないものの、使用範囲からすると、「长靴控」（ブーツフェチ）、「time 控」（タイム管理にうるさい人）などは、日本語の「コン」が用いられないだろうと思われる。

このように、日本語に比べ、中国語の「～控」がより幅広く活用されることがわかる。実は、「マザコン」の「コン」に従来中国語の「情结」で対応していたのだが、「～控」は、「改革開放」後の「ロリコン」の伝来に伴って中国語に創出されて以来、響きがよくてしかもしゃれた言い方として、もともとの「情结」にかわって、一躍人気語になり、様々な場に用いられるようになった。これが要因で、「～控」の用法が広がってきたのであろう。

5. 「改革開放」後の日系外来語にみる時代社会的変遷

「改革開放」後の中国は、近代期に比べ、様々な面において、日進月歩といえるほど大きな変貌を遂げている。そして、それは、日系外来語の類別、受容などの変化からも読み取れる。

5.1 「改革開放」後の日系外来語の類別・数量の変化

前掲の表2と表3における「改革開放」後の日系外来語に目を通すと、日常生活、社会科学、自然科学などの分野にかかわる用語がそれぞれあることがまずわかった。ただ、これだけでは、日系外来語の時代変化を推し測ることはまだ物足りない。かわりに、近代期のものを見比べれば明らかになる。

顾江萍（2007）は、次のように、近代期の1763語と、20世紀後期の203語の日系外来語をそれぞれ分野別に整理した。

表4 近代期の日系外来語の分野分布

分野	生活類	社会科学類	自然科学類	総計
語数	552	873	338	1763
語例	保障、乗客	主观、行政	比率、气压	

（語例の列記と表の調整は本稿による。以下同様）

表5 20世紀後期の日系外来語の分野分布

分野	生活類	社会科学類	自然科学類	総計
語数	123	73	7	203
語例	保育、看板	監理、研修	漢方、歯科	

なお、「改革開放」後の日系外来語の様子を示すために、本稿では次の表6に前記の表2と表3をもとにその分野分布をまとめた¹¹。

表6 「改革開放」後の日系外来語の分野分布

分野	生活類	社会科学類	自然科学類	総計
語数	310	47	19	376
語例	美白、腐女	物流、内需	点滴、中水	

表4、表5及び表6を見比べると、いくつかの興味深い事象に気がつく。一つは、近代期に比べ、20世紀後期ないし「改革開放」後の日系外来語数が全面的に激減したことである。もう一つは、近代期において社会科学類の割合がトップであるのに対して、20世紀後期にしても「改革開放」後にしても、いずれにも生活類が多いことである。

表には記されていないが、実はその変化にそれぞれの時代的、歴史的な背景が映っている。

まずは、総語数の変化についてである。近代の中国は、いち早く西洋の近代文明及び最先端の科学技術を学び取り、しかも明治維新の成功で一躍先進国の仲間入りを果たした日本からの刺激があまりにも大きかったため、社会各階層では全面的に日本に学ぼうという認識が固まっていた。それ以来、日本への見学や留学を含む人的な交流などが盛んに展開されたり、政治経済や科学技術など膨大な図書、文献が留学生や有識者などの手によって日本から中国に紹介されたりするようになっていた。そして、それに伴って大量の日本語が中国語に流入してきたのである。これに対して、「改革開放」後の中国は、まだ立ち遅れていたところがあったが、国民の自信が高まり、国

¹¹ この分類はあくまで一般論の範囲内に限定しておく。例えば、「空調」が生活類なのか自然科学類なのか議論するところがあるだろう。本稿では顾江萍(2007)による語例区分を参考に、一般生活から少々離れた、技術色の感じられる「黑科技」などを自然科学類とし、日常生活に密着している「空調」などを生活類とした。なお、経済、法律、体育などの関係語を社会科学類とした。

全体としてすでに大きく発展しているし、日本を含む海外との交流も幅広く進んでいるため、近代期のようにほぼすべてを日本に夢中に頼り求めるというニーズも必要性も低下してきた。それが結局この時期の日系外来語の減少に繋がっていたのではないかと思われる。また、日本語より、英語などの影響力が中国で高まってきていることは、そういった変化の生起にも働きかけているとあってよいだろう。

次に類別比例の変化をみよう。表4によると、社会科学類と自然科学類の語は総計1211語で、生活類の552語をはるかに超え、全体の約70%を占めている。というのは、近代期の中国にとって社会変革や富国強兵に必要な百科知識への関心や吸収欲求がもっとも高かったことを物語る。しかし、こういった事情は、「改革開放」後になると一変した。表6によれば、社会科学類と自然科学類の語は合計66語で、生活類の310語を大きく下回り、全体のただ19%を占めている。ということは、「改革開放」後の中国が社会、技術など各方面で大きな進歩を遂げているため、国民による日本への関心が日常的な生活事に大きく転向していることを裏付けている。

5.2 「改革開放」後の日系外来語の受容の変化

百数十年前に比べて、今日における日本語も中国語も大きく変化したのが自然な流れである。同じように、日系外来語の受け入れにおいても、時代の変化が感じられる。その一つは、「改革開放」後には、「社会」や「科学」など抽象的な概念を表す言葉はほとんど含まれず、食生活などに関わる日常的な語彙が多い(呉悦ほか、2003)ということである。もう一つは、「改革開放」後の日本語転入に関わっている主力陣の入れ替えで、これまでになかった異色の移入語が生まれたということである。

まず、日常語の多さを検討してみよう。表6の社会科学に分類された諸語を調べたところ、「不作為」(不作為)、「偏差値」、「泡沫経済」(パブル経済)など、比較的新しい概念を表すものが見つかった。ただ、どちらかといえば、それらが、近代期の「哲学」、「共産主義」(共産主義)、「金属」などの輸入語に潜められた意味の斬新さ、概念の抽象性とは到底比較にはならない。この意味で、「改革開放」後の日系外来語には、抽象語が少ないということになる。これは、ここ数十年間にわたった社会進歩や科学技術の躍進で、中国の人たちが外部の物事を独自に捉えることが可能になったので、日本語の力を借りてまでそれらを表現する必要がなくなっているからではないか考えられる。これに加えて、現在の日本では、漢字ではなく、外来語で外来の新事物などを表すようになってきているため、近代期のごとく栄えていた漢字語がかなり減少してきたことになる。この結果、中国語に流入する抽象語も少なくなってきたのである。かわりに、時代の変化で、近代のように官僚やエリートがメインではなく、一般人でも関与できるような中日交流の深化などで、日本の特徴的な事柄や

中国にない日常的な物事を言い表すものがより多く中国語に流入するようになってきた。

次に、日本語導入の作業に取り組む人たちの構成をみよう。近代中国は、衰退した状態から抜け出すために、日本から先進的な知識を国を挙げて学ぼうとしていた。これがゆえに、当時に主に知識人によって導入され、のちに徐々に国民によって受け入れられた日系外来語は、知識的、技術的な用語が中心であった。例えば、生活類の「日程」「营养」（栄養）、社会科学類の「理想」「神道」、自然科学類の「原子」「海流」などである。しかし、「改革開放」後になると、日系外来語の移入事情に異変が起こった。それは、この時期において、インターネットが中国でも普及し始めていることに加わり、日本の世界を誇るアニメ・漫画作品が中国に大量流入するようになったが、その主要な愛用者や愛読者がいずれも若い世代であるということである。よって、「改革開放」後に輸入された日本語は、そういう影響を受けたものが現れてきたのである。例として、「幼齿」（幼稚）、「正太」、「治愈系」（癒し系）などがあげられる。こういったものは、いずれも近代の知識人たちが目を向けない、導入はしないものであろう。もちろん、どの時代にもそれなりの用語特徴があるわけであるが、近代期の富国強兵という歴史的、時代的な使命感と緊迫感のもとで輸入された数々の日系外来語の重さや丁重さに比べ、「改革開放」後には、しゃれとか、ポップカルチャー風で生活っぽい感じがする日本語も中国語に入ったという点に対して、さすがに時代の大きな変化があったとつくづく認識させられる。

6. おわりに

本稿は、「改革開放」後に中国語に入った日系外来語について、移入法、意味用法、時代変遷の3点から分析を加えてみた。その結果は以下の通りになる。

- a. 移入法については、語形借用、音訳、意識、混用の4法が確認できたが、語形借用法がもっとも常用され、しかもそれによる日系外来語の数が一番多い。
- b. 意味用法については、主に「暴走・暴走族」など意味の変化例、「毒舌」など用法の変化例をそれぞれ例示を通して考察した。なお、その変化は、日本語の漢字の意味要素、日本語話者と中国語話者による使用場面への認識差、中国語話者によるしゃれたい心理に影響されて起きたのではないかと考えられる。
- c. 時代変遷については、日系外来語の類別・数量及び受容の変化から検討した。結論からいうと、「改革開放」後の日系外来語数が全面的に激減したことと、近代期には社会科学類の語の割合がトップであるのに対して、「改革開放」後には生活類が多いことが明らかにされた。

引用資料

- 『名鏡国語辞典 第二版』北原保雄編、大修館書店、2010
『新华网络语言词典』汪磊編、商务印书馆、2012

参考文献

- 荒川清秀（1997）『近代日中の学術用語の形成と伝播—地理学用語を中心に』白帝社
王莎莎（2014）『日源汉语网络词语语义演变的认知研究』湖南师范大学硕士论文
王雯（2010）『改革开放以来的日源外来词研究』河北大学硕士论文
夏晓丽（2006）『现代汉语中的日源外来词研究』辽宁师范大学硕士论文
譙燕、徐一平、施建军（2011）『日源新词研究』学苑出版社
顾江萍（2007）『汉语中日语借词研究』厦门大学博士论文
呉悦、筒井紀美（2003）「中国語新語の中の日本語語彙についての研究」『日中言語対照研究論集』（5）,147-169
俣仁鋒、袁薇（2016）「日本語からの新借用語についての整理と考察—1978年～2014年—」『日中語彙研究』（6）,27-44
実藤恵秀（1970）『中国人日本留学史』くろしお出版
朱京偉（1995）「明治のことは辞典」と現代中国語における日本語からの借用語—借用語研究の問題点をめぐって—『明海日本語』（1）,135-142
秦晓晖（2014）『20世紀80年代以後中国に入ってきた新日系外来語の一考察—大学生の受容状況を中心に—』南京财经大学硕士论文
沈国威（2008）『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容—』笠間書院
沈文凡、潘怡良（2008）「新时期日源借词的引入及其特点」『日本学论坛』（3）,28-33
钱爱琴（2018）「报刊中日源新词使用现状之考察—以2017年〈人民日报〉为中心」『传播与版权』（9）,18-20
陈力卫（2007）「近代以来中日之间的词语漂移」『21世纪经济报道』南方财经全媒体集团
万红（2007）『当代汉语的社会语言学观照—外来词进入汉语的第三次高潮和港台词语的北上—』南开大学出版社
李运博（2010）『汉字文化圈近代语言文化交流研究』南开大学出版社
李旖旎、徐敬宏（2016）「汉语网络词语中的日源词认知度调查分析」『北京邮电大学学报（社会科学版）』,101-107
刘凡夫（2016）「现代中日两国词语共时性互动研究」『日语学习与研究』（6）,55-64